

簡単・便利な機能が充実した APS-C サイズミラーレスカメラ“EOS R50”と  
小型・軽量の望遠ズームレンズ“RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM”を発売

キヤノンは、カメラ初心者でも簡単・便利に静止画・動画撮影を楽しめる APS-C サイズミラーレスカメラ“EOS R50”と、小型・軽量の APS-C サイズカメラ用望遠ズームレンズ“RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM”<sup>※1</sup>を 2023 年 3 月下旬に発売します。



EOS R50 (ホワイト/ブラック)  
\* RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM 装着時<sup>※2</sup>



RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM



カメラもレンズも手軽に持ち運べる  
小型・軽量ボディを実現

“EOS R50”は、EOS R シリーズ最小・最軽量<sup>※3</sup>となる小型・軽量ボディに「EOS R システム」の高い撮影性能や便利な通信機能を凝縮したミラーレスカメラです。EOS R シリーズの APS-C サイズカメラ用望遠ズームレンズ“RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM”とともに「EOS R システム」のラインアップを拡充することで、幅広いユーザーのニーズに応えます。

1. カメラまかせで簡単・キレイな写真が撮れる静止画撮影機能

カメラ初心者でもシーンに適した撮影が簡単にできる全自動モード「シーンインテリジェントオート」の機能がさらに充実し、撮影が難しい逆光や夜景などのシーンでも、カメラまかせでより豊かな写真表現が可能な「アドバンス A+」や、1 回の撮影で明るさや色合いの異なる 3 枚の画像を自動で記録でき、画づくりの違いを楽しむことができる「クリエイティブブラケット」を新たに搭載しています。また、上位機種である「EOS R10」(2022 年 7 月発売)の AF 被写体検出技術を継承し、人物、動物(犬・猫・鳥)、乗り物(モータースポーツにおける車・バイク)の被写体検出に対応しています<sup>※4</sup>。さらに、電子シャッターによる撮影時は、AF/AE 追従で最高約 15 コマ/秒、電子先幕による撮影時は、AF/AE 追従で最高約 12 コマ/秒の高速連写<sup>※5</sup>を実現するなど、本格的な静止画撮影にも対応しています。

2. Vlog などの多様なニーズに対応する便利な動画撮影機能

クロップなしの 6K オーバーサンプリングによる高画質な 4K 動画撮影を実現しています。さらに、商品の魅力などを紹介するレビュー動画を快適に撮影することができる「レビュー用動画」や、手持ち撮影時の手ブレを補正して、より自然な Vlog 撮影などが可能な「手ブレ補正動画」など、多様なニーズに対応する便利な動画撮影機能を搭載しています。

3. 35mm 判換算で約 88-336mm 相当の焦点距離をカバーする望遠ズームレンズ“RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM”

幅広い望遠域をカバーしながら、全長約 92.9mm、質量約 270g の小型・軽量と高画質を実現しています。また、レンズ内光学式手ブレ補正機構により 4.5 段<sup>※6</sup>、ボディ内手ブレ補正機構を搭載したカメラとの協調制御により 7.0 段<sup>※6</sup>の手ブレ補正効果を発揮します。さらに、最大撮影倍率 0.28 倍<sup>※7</sup>の近接撮影や、リードスクリュータイプのステッピングモーター(STM)の搭載による自然でなめらかな動画 AF など、さまざまなシーンで快適な撮影を実現します。

※1. 「EOS R7」(2022 年 6 月発売)、「EOS R10」で使用する場合は、2023 年 3 月公開予定のカメラ側ファームウェアの適用が必要です。

※2. シルバーカラーの「RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM」は、レンズ単体では購入できません。「EOS R50・RF-S18-45 IS STM レンズキット」および「EOS R50・ダブルズームキット」購入時、ボディがホワイトの場合、レンズが「RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM (シルバー)」となります。2023 年 2 月 8 日時点。

※3. 2023 年 2 月 8 日時点で発売済みの EOS R シリーズのカメラにおいて。

※4. 被写体によっては検出できないことがあります。また、対象ではない被写体を検出する場合もあります。

※5. 連続撮影速度の条件およびサーボ AF 時に最高連続撮影速度に対応するレンズについては、キヤノン公式 WEB サイトをご確認ください。

※6. 動作条件は、5 ページ 2.の※1、※2 に記載。

※7. 焦点距離 210mm (35mm 判換算約 336mm 相当) 時。

製品名	希望小売価格	発売日
EOS R50 (ホワイト/ブラック)	オープン価格	2023年3月下旬
RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM		

- 
- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター 0570-08-0002
  - EOS ホームページ : [canon.jp/eos](https://canon.jp/eos)

## 〈“EOS R50”の主な特長〉

### 1. カメラまかせで簡単・キレイな写真が撮れる静止画撮影機能

- 有効画素数最大約 2420 万画素<sup>※1</sup>APS-C サイズ CMOS センサーと、映像エンジン「DIGIC X」により、高画質を実現。
- 静止画撮影時に常用で最高 ISO32000 の高感度撮影が可能。
- カメラ初心者でも簡単にシーンに適した撮影ができる全自動モード「シーンインテリジェントオート」の機能がさらに充実。スマホのような操作性で自分好みの画づくりができる「クリエイティブアシスト」に加え、新たに「アドバンス A+」、「クリエイティブブラケット」を搭載。
- 「アドバンス A+」では、カメラ初心者では撮影が難しい逆光や夜景などのシーンでも、カメラまかせでより豊かな写真表現が可能。カメラが自動でシーンを判別し、複数枚の画像を連続撮影して自動で合成。逆光や明暗差の大きいシーンでは、暗部の階調性を向上させながら、白とびも軽減したダイナミックレンジの広い画像を撮影可能。また、夜景撮影では、白とびや黒つぶれを軽減しながら、ネオンなどの鮮やかな色味をなめらかに再現。さらに、マクロ撮影では、手前から奥までピントが合った被写界深度が深い画像を撮影可能。



高画質を実現  
EOS R50 と RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM の  
組み合わせで撮影



「アドバンス A+」  
明部の白とびを軽減



通常の「シーンインテリジェントオート」



「アドバンス A+」  
手前から奥までピントが合った画像



通常の「シーンインテリジェントオート」

- 「クリエイティブブラケット」では、撮影時の設定で撮った画像に加え、1 回の撮影で明るさや色合いなどを変えた 3 枚の画像を自動で記録可能。自動で記録された画像の中から好みの画像を見つけることや、好みの画像の設定を確認して次回の撮影時の参考にすることができ、ユーザーの撮影技術のステップアップをサポート。
- 「デュアルピクセル CMOS AF II」により、広範囲で追従性に優れた高速・高精度な AF を実現。
- ディープラーニング技術を活用したアルゴリズム「EOS iTR<sup>※2</sup> AF X」により、優れた被写体検出性能とトラッキング性能を実現。上位機種である「EOS R10」の被写体検出技術を継承し、人物の瞳・顔・頭部・胴体、動物（犬・猫・鳥）の瞳・顔・全身、乗り物（モータースポーツにおける車・バイク）の全体・スポット検出に対応。
- 被写体の検出対象をメニューで切り替えることなく、カメラが自動で被写体を選択する「自動」設定を搭載。より手軽に被写体検出機能を活用することが可能。
- 電子シャッターによる撮影時は、AF/AE 追従で最高約 15 コマ/秒、電子先幕による撮影時は、AF/AE 追従で最高約 12 コマ/秒の高速連写を実現。
- 「流し撮りモード」において、被写体の動きに合わせてカメラを動かした際に、被写体の動きとカメラの動きのズレ量を色と線の数で表示する「被写体ブレガイド」機能を搭載<sup>※3</sup>。

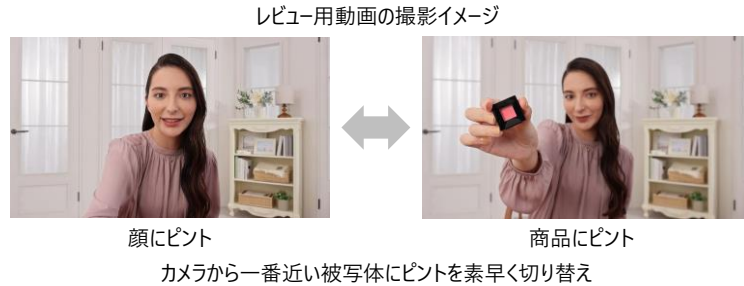
※1. 総画素数約 2550 万画素。使用するレンズまたは画像処理により、有効画素が減少することがあります。

※2. Intelligent Tracking and Recognition

※3. 流し撮りモードに対応するレンズについては、キヤノン公式 WEB サイトをご確認ください。流し撮りモード時は、AF フレーム・AF エリアは、1 点 AF/フレキシブルゾーン AF1/フレキシブルゾーン AF2/フレキシブルゾーン AF3 に限定されます。検出対象以外の被写体（例えば電車や飛行機など）にブレガイドを表示する際は、「サーボ AF 中の全域トラッキング」を「しない」に設定する必要があります。

## 2. Vlog などの多様なニーズに対応する便利な動画撮影機能

- クロップなしの 6K オーバーサンプリングによる高画質な 4K/30P<sup>※1</sup> 動画撮影を実現。
- クロップなしのフル HD/120P<sup>※1</sup> ハイフレームレート動画撮影に対応。
- Vlog 撮影にも便利な「レビュー用動画」に対応。カメラから一番近い被写体にピントを素早く切り替えることができ、カメラを固定して商品などの使い心地や魅力を紹介する自撮り動画などを快適に撮影可能。
- 手持ち撮影時の手ブレを補正して、より自然な Vlog 撮影などが可能な「手ブレ補正動画」に対応。動画電子 IS<sup>※2</sup> がデフォルトで「手ブレ補正：強」に設定され、カメラが不安定になりがちな、手持ち撮影時の手ブレを補正。
- 動画電子 IS により、レンズ内 IS を搭載していないレンズであっても手ブレを抑えた安定した動画撮影を実現。さらに、レンズ内 IS を搭載した RF レンズ装着時は、動画電子 IS とレンズ内 IS の協調制御によってブレをより効果的に軽減。
- 動画撮影時においても、「デュアルピクセル CMOS AF II」による AF 撮影が可能。「EOS iTR AF X」による被写体検出機能を生かし、動き回る被写体にも広い範囲で粘り強くピントを合わせ続け、撮影をサポート。
- 水平の傾きを自動で補正する、「自動水平補正<sup>※3</sup>」を搭載。ハイアングル・ローアングルなどでカメラを水平に保つのが難しいときに効果的。
- 静止画を撮影するだけで、静止画と同時に、撮影直前の約 2~4 秒のシーンが動画として記録され、1 日をまとめた短編動画（ダイジェスト動画）が自動記録される「プラスムービーオート」に対応。
- 画面上に、動画撮影中であることを示す赤い枠を強調して表示することが可能。撮影ができているかの確認が容易。



- ※1. 4K/30P は 4K UHD (29.97fps/25.00fps)、フル HD/120P はフル HD (119.88fps/100.00fps)。  
※2. 動画電子 IS 使用時は、撮影範囲が狭くなります。また、映像が拡大されるため、映像が粗くなります。  
※3. [自動水平補正：する] 設定時は、[手ブレ補正：切] となり（同時設定不可）、撮影範囲が狭くなります。また縦位置では使用できません。

## 3. 小型・軽量ボディと充実の通信機能・拡張性

- 上位機種「EOS R10」に迫る高画質・高性能を達成しながら、大きさ約 116.3mm（幅）×85.5mm（高さ）×68.8mm（奥行き）、質量約 375g（ブラック）/約 376g（ホワイト）の EOS R シリーズ最小・最軽量を実現。
- 多彩な機能を分かりやすいビジュアルで解説する撮影モードガイドや、直感的な操作・設定が可能なタッチパネルを搭載。
- スマホなどの携帯端末への Wi-Fi/Bluetooth<sup>®</sup> による接続が可能<sup>※1</sup>。また、デジタル端子（USB）による携帯端末との有線接続にも対応<sup>※2</sup>。
- UVC（USB Video Class）/UAC（USB Audio Class）に対応し、ウェブカメラとして使用可能。ストリーミング配信やリモート会議で、高画質な映像やレンズのボケ味を生かした映像の配信を実現<sup>※3</sup>。
- カメラからキヤノンのクラウドサービス「image.canon」への画像自動転送に対応。「image.canon」では、「Google Photos」や「Frame.io」などのウェブサービスへデータを転送でき、撮影した静止画や動画を手軽にバックアップし、編集することが可能<sup>※4</sup>。

- ※1. Bluetooth Low Energy 技術に対応。以降の表記においては Bluetooth と記載。Bluetooth 機能の動作条件は、接続機器が iOS/AndroidTM :Bluetooth 4.0 以上を搭載するデバイスです。ただし、上記の動作条件を満たす機器であっても、機種によっては、Bluetooth 接続ができない場合があります。Bluetooth 接続ができない場合でも、機器と Wi-Fi 接続による画像の転送、リモート操作は可能です。なお、Bluetooth 接続には、事前にカメラと携帯端末をペアリングしておく必要があります。カメラと携帯端末の Wi-Fi や Bluetooth での接続には、キヤノン専用アプリケーション「Camera Connect」のインストールが必要です。
- ※2. USB 通信には別途ケーブルが必要です。また iPhone への有線転送には通信に対応したケーブルが必要です。
- ※3. カメラ内のメモリーカードへの記録は行われません。長時間使用する場合、別売りの「AC-E6N」および「DR-E18」の使用をお勧めします。
- ※4. 自動転送には、事前登録した Wi-Fi アクセスポイントに接続している必要があります。「Google Photos」へは静止画のみ転送可能です。

## 〈“RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM”の主な特長〉

### 1. 35mm 判換算で焦点距離約 88-336mm 相当の望遠域をカバーする小型・軽量の望遠ズームレンズ

- 35mm 判換算で約 88-336mm 相当の望遠域をカバーしながら、全長約 92.9mm、質量約 270g の小型・軽量を実現。圧縮効果など望遠レンズならではの写真表現を楽しむことが可能。
- 2 枚の「UD レンズ」、1 枚の「非球面レンズ」を含む 8 群 11 枚のレンズ光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を低減し、高画質を実現。
- EOS R シリーズの APS-C サイズカメラに加え、EOS R シリーズのフルサイズカメラにも装着でき、それぞれのカメラを併用する場合など、レンズを有効活用することが可能。



EOS R50 と RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM の組み合わせで撮影

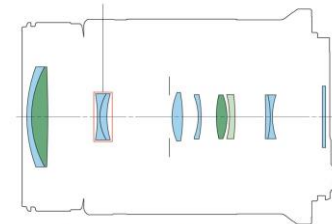


焦点距離 55mm  
(35mm 判換算約 88mm 相当)



焦点距離 210mm  
(35mm 判換算約 336mm 相当)

手ブレ補正光学系



● UDレンズ ● 非球面レンズ

RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM (55mm 時)  
光学構成図

※1. フルサイズカメラ装着時は、撮影画面の中央部が APS-C サイズ相当の画角にクロップされます。

### 2. レンズ内手ブレ補正により 4.5 段、ボディー内手ブレ補正との協調制御により 7.0 段の手ブレ補正効果

- レンズ内光学式手ブレ補正機構により 4.5 段<sup>※1</sup>の手ブレ補正効果を実現。“EOS R50”などのボディー内手ブレ補正機構を搭載していないカメラとの組み合わせでも高い手ブレ補正効果を発揮。
- ボディー内手ブレ補正機構を搭載したカメラとの協調制御により 7.0 段<sup>※2</sup>の手ブレ補正効果を実現。

※1. 焦点距離 210mm (35mm 判換算約 336mm 相当)、EOS R10 使用時。CIPA 規格に準拠 (Yaw/Pitch 方向)。

※2. 焦点距離 210mm (35mm 判換算約 336mm 相当)、EOS R7 使用時。CIPA 規格に準拠 (Yaw/Pitch 方向)。



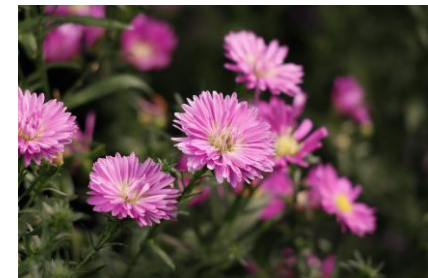
手持ち撮影でも手ブレを抑えた撮影が可能

### 3. 最大撮影倍率 0.28 倍の近接撮影や、快適な動画撮影を実現

- 最短撮影距離 0.73m、最大撮影倍率 0.28 倍を実現し、ディテールに迫る近接撮影が可能<sup>※1</sup>。
- リードスクリュウタイプのステップングモーター (STM) の搭載により、動画撮影時にも自然でなめらかな AF が可能。Vlog や SNS などで需要の高まる動画撮影ニーズに対応。



EOS R50 + RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM  
最大撮影倍率 0.28 倍 / 最短撮影距離 0.73m



EOS Kiss M2 + EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STM  
最大撮影倍率 0.21 倍 / 最短撮影距離 1.0m

望遠端における最大撮影倍率の比較

- 動画撮影中のフォーカス操作によって生じる画角変動を、カメラで電子的に補正する「フォーカスブリージング補正<sup>※2</sup>」に対応。

※1. 焦点距離 210mm (35mm 判換算約 336mm 相当) 時。

※2. フォーカスブリージング補正対応のカメラ装着時。

## 〈商品構成（キット内容）〉

名称	内容
EOS R50・ボディー	EOS R50（ホワイト／ブラック）
EOS R50・RF-S18-45 IS STM レンズキット	EOS R50（ホワイト／ブラック） RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM（シルバー／ブラック）
EOS R50・ダブルズームキット	EOS R50（ホワイト／ブラック） RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM（シルバー／ブラック） RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM

※レンズキットのボディーとレンズの色の組み合わせは、ボディーがホワイトの場合、「RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM」はシルバーとなります。ボディーがブラックの場合、「RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM」はブラックとなります。

## 〈レンズ交換式カメラの市場動向〉

2022 年の世界のカメラ市場におけるレンズ交換式カメラの販売台数は、約 585 万台となりました。2023 年も、約 585 万台を見込んでいます。（キヤノン調べ）

## 〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。<https://cweb.canon.jp/eos/lineup/r50/>

- \* USB Type-C™および USB-C™は USB Implementers Forum の商標です。
- \* Wi-Fi®、Wi-Fi Alliance®、WPA™、WPA2™および Wi-Fi Protected Setup™は Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。
- \* Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- \* IOS は、米国およびその他の国々における Cisco 社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- \* Android、Google Photos は Google LLC の商標です。
- \* Frame.io はアメリカ合衆国およびその他の国々における Adobe（アドビ社）の商標または登録商標です。
- \* その他、記載されている会社名、製品・サービス名は一般に各社の商標または、登録商標です。